

この春は、上越市内で二つの小学校が閉校しました。3月23日には、創立139年の黒川小学校(柿崎区)、24日には、創立138年の桑取小学校で、相次いで閉校式が行われました。いずれも中山間地にありますが、長い歴史を持つ小学校です。両校とも、最後となる2人の卒業生を送り出し、在校生は27人と7人となりました。地域の皆さんとの話し合いの結果、子どもの教育を第一に考えて隣の小学校と統合することになったのです。

「呼びかけ」では、子どもたちがこれまでのいろいろな思い出をたどりながら、閉校となって壊されていく校舎と体育館に、感謝と寂しさを伝え、新しい旅立ちへの決意を語りました。そして、ここで歌う最後の校歌を、心を込めて歌いました。子どもたちばかりでなく、参加したたくさんの方の元の人たちや、かつての卒業生たちも、感動のあまり涙していました。



黒川小の閉校式



桑取小の閉校式

地保育所として残りまし。しかし、その保育所もその後統合され、跡地には地区公民館ができました。ところが、今度は、市の「公民館再配置計画」によって、公民館も失われようとしています。学校や保育園、公民館(分館)は、地域の人たちのよりどころであり、地域コミュニティの中心です。ここで子どもたちが学び、育ってきたばかりでなく、地域住民もここに誇り、力を合わせてきました。今回2つの小学校が閉校しましたが、地域のコミュニティを守り育てる意識を大切に、地域発展の鍵にしたいものです。

(仮称)厚生産業会館建設ストップで修正案を共同提出 採決では市民の暮らしを守れない39の議案に反対

市議会3月定例会終了

3月議会は3月25日、提出された条例や予算などのすべてを可決して終わりました。

今回の議会では、総合事務所の産業建設グループの集約、(仮称)厚生産業会館建設事業など、注目を集めた問題がいくつもありました。

このうち、(仮称)厚生産業会館建設事業では、会派「みらい」の中川・櫻庭両議員から、関連経費を削除する修正案の共同提案の申し入れがありました。日本共産党議員団は、一般会計予算では、総合事務所の産業建設グループ集約を前提にしている点や学校給食の民間委託拡大など、他にも黙過できない問題点があるものの、高田区地域協議会の意思を軽んじた市政運営の変更を迫るためにも共同提案に応じることとし、上野議員が賛成討論を行いました。

上野議員の討論では、「上越市は、(仮称)厚生産業会館基本構想を確定するにあたり、高田地域協議会やパブリックコメントで出された意見を一部反映させたものの、構想の根幹たる基本点は高田区地域協議会で不相当とされ

求めた結果となりました。今回の議会に提案された案件は、報告、決議などを含めて113件、日本共産党議員団はこのうち39件に反対しました。これだけ多くの案件に反対したのは、公の施設の再配置計画の中で、本来市が責任を持つべき福祉施設などの廃止案件がたくさん出たほか、全国ワースト3の高額保険料の介護保険や、県内上位の保険税額になっている国民健康保険、国の公務員バッシングの流れに沿った給料減らしなど、市民の暮らしを守れない議案が多かったことによるものです。



上野議員の賛成討論

た当初案を変えていない。よって、さらなる協議や対話に基づいた市民合意なしに平成25年度予算に計上することは適当ではない」と述べました。

採決では、提出者の私たち3人+中川・櫻庭両議員のほか、無所属の永島義雄、石平春彦、石田裕一議員の3人も賛成しました。合計で8人が修正案に賛成したことになり、否決されたとはいえ、全体の4分の1の議員が削除を

求めた結果となりました。今回の議会に提案された案件は、報告、決議などを含めて113件、日本共産党議員団はこのうち39件に反対しました。これだけ多くの案件に反対したのは、公の施設の再配置計画の中で、本来市が責任を持つべき福祉施設などの廃止案件がたくさん出たほか、全国ワースト3の高額保険料の介護保険や、県内上位の保険税額になっている国民健康保険、国の公務員バッシングの流れに沿った給料減らしなど、市民の暮らしを守れない議案が多かったことによるものです。



39議案の反対理由を述べる平良木議員

日本共産党上越市議員団ニュース

No.358 2013年4月7日

- 連絡先
- 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 - 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 - 平良木哲也 090-1808-6919 (上中田)

糸魚川市議選4月21日投開票

お隣、糸魚川市の市議会議員選挙が、4月14日告示・21日投票の日程で行われます。日本共産党から、池田たつお氏(能生地区)、新保みねたか氏(糸魚川地区)の両現職議員が立候補する予定です。両議員とも、子ども医療費助成の高校生への拡充や、放射能汚染汚泥持ち込み反対運動などで、市民とともにがんばっています。